

スポーツ選手の心理的特性に関する国際比較

朱, 健民
上海第二教育学院

張, 景陞
上海第二教育学院

周, 家驥
上海師範大学

徳永, 幹雄
九州大学健康科学センター

他

<https://doi.org/10.15017/547>

出版情報 : 健康科学. 12, pp.191-198, 1990-03-28. 九州大学健康科学センター
バージョン :
権利関係 :



研究資料

スポーツ選手の心理的特性に関する国際比較

朱 健民* 張 景陞* 周 家驥**
徳永幹雄 橋本公雄 高柳茂美

Comparison with Chinese and Japanese Athletes on Psychological Trait in Competition

Jian Min ZHU, Jing Sheng ZHANG, Jia Ji ZHOU
Mikio TOKUNAGA, Kimio HASHIMOTO and Shigemi TAKAYANAGI

目 的

スポーツ選手が競技で実力を発揮するためには、競技場面でみられる心理的特性が重要視されている。しかも、こうした心理的特性は、しばしば民族的な相違があることが指摘されている。

本研究では、文化、習慣の異なる国のスポーツ選手の心理的特性の相違を分析しようとするものであり、今回は中国と日本の大学スポーツ選手を対象として、両国スポーツ選手の競技特性不安や心理的競技能力を比較・検討した。

方 法

1. 対 象

中国の対象は上海師範大学及び上海第二教育学院の体育学部1年生男子67名、女子37名である。その比較対象となる日本のスポーツ選手は福岡県内の大学生を対象とし、競技不安については男子162名、女子109名、心理的競技能力診断テストは男子50名、女子23名である。その他、比較資料として1986年度福岡県国体選手(男子108名、女子68名)、福岡県ボーリング協会強化選手(男子7名、女子7名)、九州地区ジュニア水泳強化選手(男子27名、女子21名)を対象とした。

2. 調 査 期 間

中国大学生 1989年6月下旬

日本大学生 1988年5月、1989年4月-7月

福岡県国体選手 1988年10-11月

福岡県ボーリング協会強化選手 1988年10月

九州ジュニア水泳強化選手 1988年1月

3. 調 査 方 法

調査は質問紙法を用い、中国の大学スポーツ選手には上海師範大学と上海第二教育学院の体育学部の体育教官に依頼して調査を行った。日本の大学生には筆者らが直接調査を行い収集した。

4. 調 査 内 容

徳永・橋本らが作成した競技特性不安テスト(TAIS: Trait Anxiety Inventory for Sport)⁷⁾と心理的競技能力診断テスト⁸⁾、Martensらが作成したSCAT(Sport Competition Anxiety Test)⁹⁾を用い、これらの調査票の中国語版の翻訳は朱健民が担当した。なお、TAISは、動作の緊張傾向、身体的緊張傾向、勝敗の認知的不安、競技意欲の低下、自信の低下などの5つの下位尺度から構成されており、心理的競技能力テストは、競技意欲、精神の安定・集中、自信、予測・判断力、協調性などの5つの下位尺度から構成されている。

結 果 と 考 察

1. 中国スポーツ選手の心理的特性

まず、中国スポーツ選手の心理的特性を先行研究から検討することにする。

陳文琦²⁾は、中国のトップレベルの体操選手を対象とし、また、邱宜均・貝恩渤¹⁾は陸上競技短距離選手と学生選手を対象として、向性及び神経症傾向を比較

Institute of Health Science, Kyushu University 11, Kasuga 816, Japan.

*上海第二教育学院, 上海市, 中華人民共和国

**上海師範大学, 上海市, 中華人民共和国

表1 中国体操選手の向性

	体操選手	学生	体操男子	学生男子	体操女子	学生女子	体操男子	体操女子
人数	37	37	17	17	20	20	17	20
平均値	47.26	53.78	52.35	52.94	42.75	54.50	52.35	42.75
標準偏差	13.36	10.23	8.86	7.30	15.10	12.34	8.86	15.10
t検定	-2.29*		-0.23		-2.78*		2.29*	

*p<.05

表2 中国体操選手の神経症傾向

	体操選手	学生	体操男子	学生男子	体操女子	学生女子	体操男子	体操女子
人数	37	37	17	17	20	20	17	20
平均値	50.14	48.65	51.76	47.94	48.75	48.25	51.14	48.75
標準偏差	10.90	12.11	11.98	13.00	9.98	11.95	11.98	9.98
t検定	0.58		0.97		0.14		0.87	

表3 中国短距離選手の向性

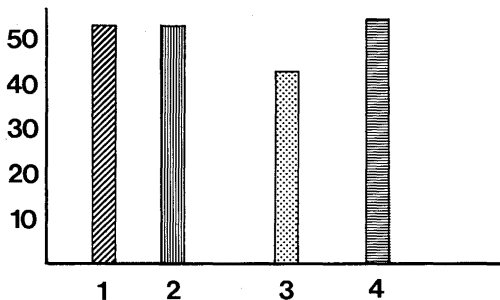
	人数	内向		中間		外向	
		人数	%	人数	%	人数	%
男子選手	33	6	18.9	18	54.4	9	27.3
男子学生	34	2	5.9	17	50.0	15	44.1
女子選手	31	8	25.8	16	51.6	7	22.6
女子学生	31	4	12.9	15	48.4	12	28.7

表4 中国短距離選手の神経症傾向

	人数	低い		中間		高い	
		人数	%	人数	%	人数	%
男子選手	33	11	33.3	15	45.5	7	21.2
男子学生	34	8	23.6	16	47.1	10	29.3
女子選手	31	12	38.7	17	54.8	2	6.5
女子学生	31	9	29.0	14	45.2	8	25.8

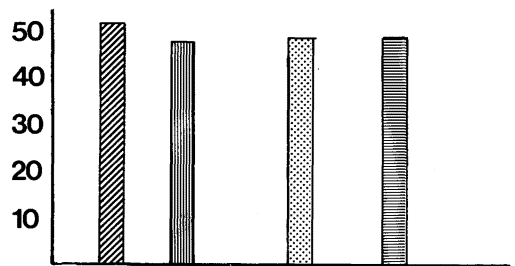
表5 中国女子バレーボール選手の向性 (MMPI)

	人数	平均値	標準偏差	t検定
女子選手	125	42.23	5.36	P<0.05
一般女子	53	38.19	5.38	



< 1 体操男子 2 学生男子 3 体操女子 4 学生女子 >

図1 中国体操選手の向性



< 1 体操男子 2 学生男子 3 体操女子 4 学生女子 >

図2 中国体操性の神経症傾向

している。いずれの結果からもトップレベルの選手は一般選手に比較して、わずかの差ではあるが、内向的で神経症傾向は低いことを報告している。さらに郑日昌ら²⁾のMMPIによる調査では、女子のトップレベル

のバレーボール選手は一般女子に比較して、内向的傾向であることを報告している(表1-表5)。

以上の中国選手の心理的特性に対して、日本選手については、吉沢・岡沢・猪俣¹⁰⁾が、アイゼンクの

表6 全日本女子ホッケー選手と社会人・学生選手の MPI 得点

		人数	平均値	標準偏差	t	
E 尺度	1	32	35.844	9.013	0.41	1…High level player 2…Average level player
	2	30	34.967	7.522		
N 尺度	1	32	24.125	9.584	0.17	
	2	30	23.700	9.685		

(吉沢・岡沢・猪俣, 1982)

表7 女子フェンシング選手の MPI 得点

	国際大会出場者 (N = 7)		全国大会出場者 (N = 29)		地区大会出場者 (N = 12)		一要因分散分析	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	F	P
E 尺度	28.14	9.85	30.38	8.49	31.92	8.55	2.563	—
N 尺度	19.86	7.88	25.28	10.13	21.83	10.45	1.034	—

調査時期 1984.11. ~1985.12., (吉沢・岡沢, 1986)

MPI による結果を報告している (表6)。それによると、女子ホッケー選手では競技レベルが高いほど外向的で神経症傾向の低いことがわかる。また、同様の傾向が、バスケットボール、卓球、ハンドボールの選手について報告されている^{6),12)}。しかし、女子フェンシング選手についての、吉沢・岡沢¹³⁾の報告では、競技レベルが高くなるほど内向的であることや経験年数の長い競技者ほど内向的であることが報告されている (表7)。以上、先行研究により、中国と日本のスポーツ選手の心理的特性をみてきたが、これらの研究からは、種目や経験年数によって異なり、民族的な差は明らかに出来ない。

2. 心理的競技能力について

表8から11までは、徳永・橋本⁸⁾が作成した心理的競技能力テストの結果を中国と日本のスポーツ選手で比較したものである。まず、男子の結果を表8と図3から見ると、「精神の安定・集中」「自信」「予測・判断力」の3つの下位尺度で1%水準の有意差がみられ、中国の大学スポーツ選手は日本の大学スポーツ選手に比較して、有意に高得点を示していた。つまり、中国のスポーツ選手は日本のスポーツ選手に比べ、心理的競技能力は高いといえる。なお、中国の大学スポーツ選手は大学生より技術水準の高い福岡県の国体選手に比べ、競技意欲を除く4つの下位尺度において、ほぼ同等の得点を示し、心理的競技能力を高く評価していることがわかる。

表8 心理的競技能力の比較 (男子・因子別)

因子名		中国の大学生 N = 67	日本の大学生 N = 50	差の 検定	福岡県 国体選手 N = 168	福岡県 ボーリング強化 選手 N = 7	九州ジュニア 水泳選手 N = 27
1. 競技意欲	M SD	59.3 10.30	62.9 11.33	—	66.3 11.65	67.9 12.61	57.0 10.28
2. 精神の 安定・集中	M SD	52.5 7.32	42.8 8.96	***	51.4 8.71	53.3 3.84	43.5 8.88
3. 自信	M SD	26.3 4.70	21.3 3.96	***	24.9 5.57	26.0 2.51	22.5 4.41
4. 予測・ 判断力	M SD	24.6 5.29	21.0 4.77	***	23.4 5.50	24.6 2.56	21.1 4.05
5. 協調性	M SD	19.9 3.90	19.2 4.21	—	20.4 4.30	22.4 3.06	16.9 3.95

***P<.001

表9 心理的競技能力の比較 (男子・下位因子別)

因子 下位因子			中国の大学生 N=67	日本の大学生 N=50	差の 検定	福岡県 国体選手 N=168	福岡県 ボレー強化 選手 N=7	九州ジュニア 水泳選手 N=27
競 技 意 欲	1. 忍耐力	M SD	16.3 2.93	14.7 3.00	**	16.0 3.45	17.9 0.99	12.4 3.22
	2. 闘争心	M SD	15.1 3.79	16.0 3.48	—	16.8 3.68	18.0 3.42	14.6 3.65
	3. 自己実現	M SD	14.8 3.44	15.9 2.88	—	17.1 3.12	18.9 1.46	15.8 2.92
	4. 勝利志向性	M SD	13.2 3.22	16.3 3.99	***	16.4 3.59	13.1 4.05	14.3 3.09
精 安 神 定 の 集 中	1. 集中力	M SD	32.2 4.43	27.8 5.45	***	33.5 5.25	34.7 3.10	28.6 5.24
	2. リラクゼーション	M SD	20.4 3.46	15.0 4.27	***	17.9 4.47	18.6 2.38	14.9 4.30

***P<.001 **P<.01

表10 心理的競技能力の比較 (女子・因子別)

因子名		中国の大学生 N=37	日本の大学生 N=23	差の 検定	福岡県 国体選手 N=68	福岡県 ボレー強化 選手 N=7	九州ジュニア 水泳選手 N=21
1. 競技意欲	M SD	55.5 10.74	52.4 10.74	—	59.9 10.23	68.4 5.63	58.2 7.74
2. 精神の 安定・集中	M SD	53.2 7.35	44.0 8.95	***	46.3 8.22	43.4 5.10	44.0 9.11
3. 自信	M SD	24.4 5.80	17.6 5.43	***	20.2 4.74	22.9 3.56	20.8 5.19
4. 予測・ 判断力	M SD	22.4 5.28	16.6 4.79	***	19.9 4.44	22.6 3.25	20.4 4.46
5. 協調性	M SD	19.9 3.63	17.3 3.47	**	19.4 4.18	21.1 3.04	17.0 3.09

***P<.001 **P<.01

表11 心理的競技能力の比較 (女子・下位因子別)

因子 下位因子			中国の大学生 N=37	日本の大学生 N=23	差の 検定	福岡県 国体選手 N=68	福岡県 ボレー強化 選手 N=7
競 技 意 欲	1. 忍耐力	M SD	16.4 3.13	12.4 3.44	***	14.3 2.82	16.4 2.56
	2. 闘争心	M SD	13.0 3.81	13.6 3.33	—	14.7 3.74	17.1 2.23
	3. 自己実現	M SD	13.0 3.35	14.6 3.12	—	15.7 3.30	18.4 1.18
	4. 勝利志向性	M SD	13.2 3.43	11.8 3.83	—	15.1 3.23	16.4 1.68
精 安 神 定 の 集 中	1. 集中力	M SD	32.5 4.59	28.1 5.20	***	30.7 5.17	29.0 4.00
	2. リラクゼーション	M SD	20.7 3.18	15.9 4.22	***	15.6 4.14	14.4 1.40

***P<.001

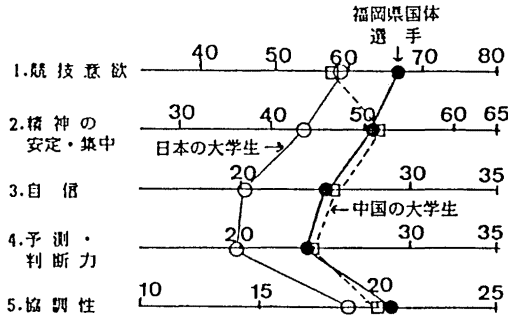


図3 心理的競技能力の比較 (男子・因子別)

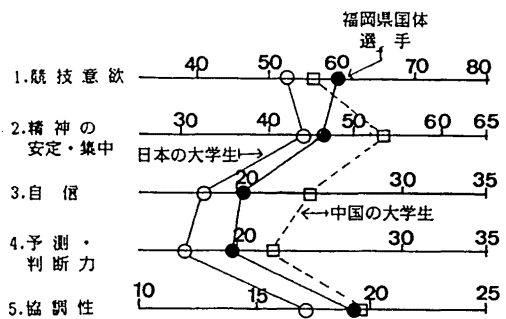


図5 心理的競技能力の比較 (女子・因子別)

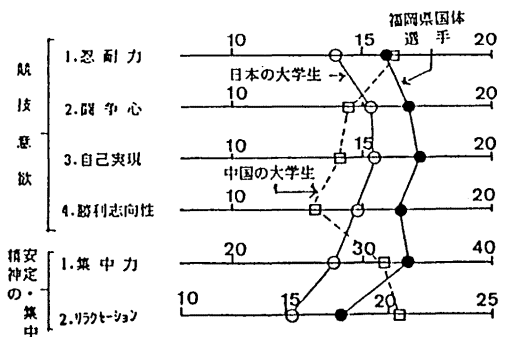


図4 心理的競技能力の比較 (男子・下位因子別)

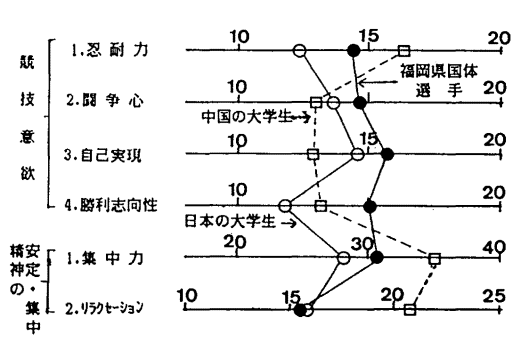


図6 心理的競技能力の比較 (女子・下位因子別)

次に、「競技意欲」と「精神の安定・集中」についてはその下位因子を見ると、表9に示すとおりである。中国の大学スポーツ選手は日本のスポーツ選手に比べ、「忍耐力」が高く、「勝利志向性」が低く、「集中力」や「リラクゼーション」能力が高いことが指摘できる。また、図4からもわかるように、日本の福岡県国体選手に比べ、「闘争心」「自己実現」「勝利志向性」といった競争意欲が低く、「リラクゼーション」能力が高

いことが示されている。

女子の場合には、因子別では図5のように、競技意欲を除いた4因子で大学生より技術水準の高い福岡県国体選手以上の高得点を示している。図6の下位因子でも日本の大学スポーツ選手に比べ、「闘争心」と「自己実現」が低く、「忍耐力」「勝利志向性」「集中力」「リラクゼーション」などは中国の大学スポーツ選手が高得点を示している。いずれも、男子と同じ結

表12 競技特性不安尺度得点の日・中比較 (男子)

		中国大学生		A		B		C		福岡国体選手		有意差
		n=67		n=50		n=96		n=162		n=168		
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	
TAIS	動作緊張傾向	7.7	1.51	9.3	2.65	8.5	2.45	8.6	2.96	7.4	2.66	*** - * - *
	身体的緊張傾向	6.7	1.56	7.9	2.35	7.4	2.24	7.4	2.68	7.2	2.55	*** - * - *
	勝敗の認知的不安	9.6	2.33	11.8	3.25	10.3	3.13	10.8	3.53	9.5	3.35	*** - * - *
	競技意欲の低下	6.0	1.23	6.8	2.25	7.0	2.06	7.6	2.72	6.8	2.18	- * - ** - ** - **
	自信の欠如	7.9	2.08	10.6	3.36	9.3	2.90	9.6	3.55	7.7	2.69	*** - ** - **
SCAT		16.3	3.54	19.5	4.14	17.4	2.95					*** - *

注) TAIS:九州大学版競技特性不安尺度, SCAT: R. Martens の競技特性不安尺度 ***P<.01 *P<.05
A:日本の大学生(1989) B:日本の大学生(1986) C:日本の大学生(1985)

表13 競技特性不安尺度得点の日・中比較 (女子)

		中国大学生		A		C		福岡国体選手		有意差		
		n=37		n=23		n=109		n=68		中国	中国	中国
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	-A	-C	-福岡
T A I S	動作緊張傾向	8.0	2.24	10.1	2.88	9.7	3.62	8.5	2.75	-**	-*	
	身体的緊張傾向	7.0	1.89	9.0	2.57	7.9	2.87	8.6	2.96	-**		-**
	勝敗の認知的不安	9.8	2.44	11.2	2.95	11.3	3.35	10.6	2.81	-*	-*	
	競技意欲の低下	7.2	2.18	7.9	2.59	8.7	3.30	8.0	2.44		-*	
	自信の欠如	8.8	2.11	11.0	3.36	11.8	3.96	9.9	2.83	-**	-**	-*
SCAT		17.0	3.70	20.8	3.82					-**		

注) TAIS：九州大学版競技特性不安尺度，SCAT：R. Martens の競技特性不安尺度 **P<.01 *P<.05

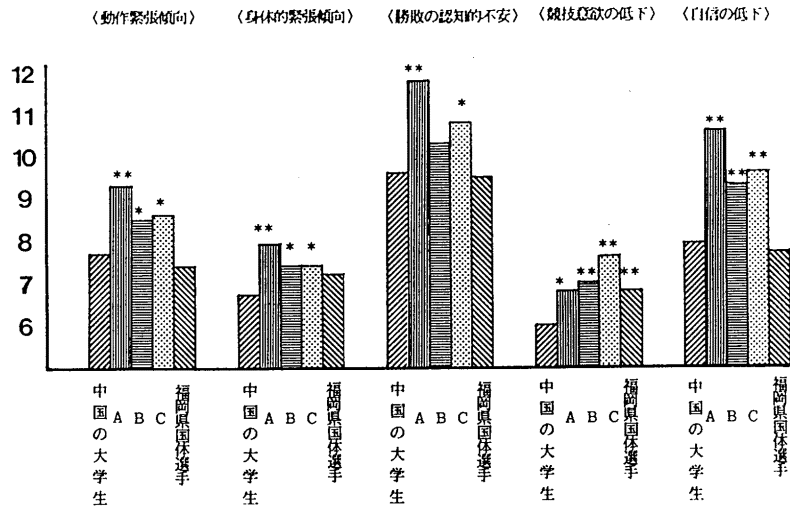


図7 競技特性不安 (TAIS) 尺度得点の日・中比較 (男子)
 《日本の大学生 A：平成元年度調査 B：昭和61年度調査 C：昭和60年度調査》
 **P<.01, *P<.05

果と言える。

3. 競技特性不安について

結果は図7のように、中国の大学スポーツ選手は、今回と過去に調査された日本の大学スポーツ選手に比べ、いずれの比較においても男女とも有意に低得点を示している。また、大学生より競技水準の高い福岡県国体選手との比較では、中国の男子大学スポーツ選手は自信の欠如は低く、女子では身体的緊張傾向と自信の欠如が低いことがわかる。すなわち、中国の大学スポーツ選手の特性不安は福岡県国体選手とほぼ同等か部分的にはそれより低い。特に、自信については、中国の大学生は男女とも競技場面で自信を失う傾向は低いといえる。

また、SCAT 尺度の比較においても同様の傾向が

みられ、中国の大学スポーツ選手の方が日本の大学スポーツ選手より低得点を示した。これらの2つの調査において、中国の大学生の競技特性不安は低いことが明らかになった。

以上、中国の大学生と日本のスポーツ選手の心理的特性を比較してきたが、中国の大学生は日本の大学生に比較して心理的競技能力を高く評価し、競技不安も低いと言うことが出来る。

この理由として、1つは恥意識の違いが考えられる。例えば、梅田ら⁹⁾は、恥意識の高い者ほど、特性不安が高いことを報告している。このように、日本の恥の文化が、今回の特性不安や競技意識における日本と中国の差となって現れたのではないと思われる。もう

(動作緊張傾向) (身体的緊張傾向) (勝敗の認知的不安) (競技意欲の低下) (自信の低下)

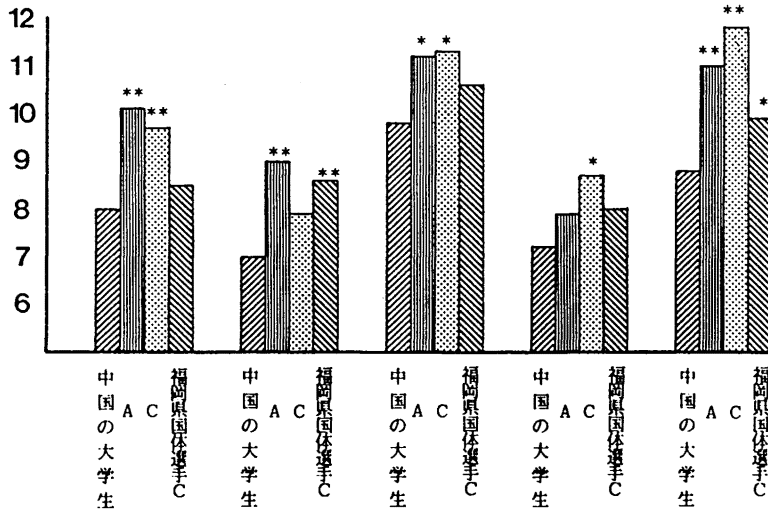


図8 競技特性不安 (TAIS) 尺度得点の日・中比較 (女子)
 《日本の大学生 A:平成元年度調査 C:昭和60年度調査》
 **P<.01, *P<.05

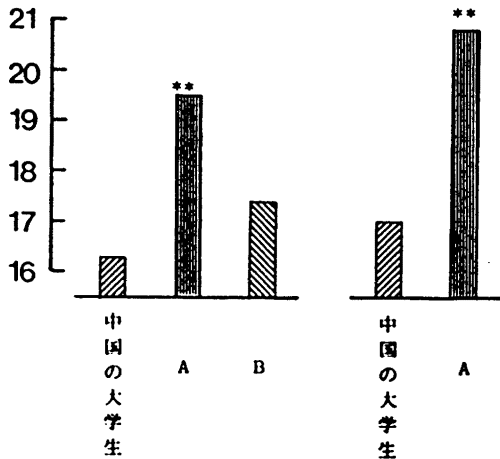


図9 競技特性不安 (SCAT) 尺度得点の日・中比較
 《日本の大学生 A:平成元年度調査 B:昭和61年度調査》
 **P<.01, *P<.05

要 約

本研究は文化、習慣の異なる中国と日本におけるスポーツ選手の心理的特性に相違がみられるかどうかを明らかにするために行われたものである。そのために、中国の大学スポーツ選手男子67名、女子37名、日本の大学スポーツ選手男子50名、女子23名を対象として、1988年から1989年にかけて、心理的競技能力診断テストとスポーツ競技特性不安テスト (TAIS, SCAT) を調査し、比較分析した。結果を要約すると次のとおりである。

1. 心理的競技能力からみると、男子では中国のスポーツ選手は日本のスポーツ選手に比べ、「精神の安定・集中」「自信」「予測・判断力」が有意に高く、日本の学生より技術水準の高い福岡県国体選手や福岡県ボーリング強化選手と同等の心理的競技能力を示していた。一方、女子においても、中国の大学スポーツ選手の方が心理的競技能力は高く、日本の大学生に比べて、「精神の安定・集中」「自信」「予測・判断力」「協調性」に有意な差がみられた。また、「精神の安定・集中」や「自信」などは中国女子の場合は福岡県国体選手や福岡県ボーリング強化選手より高い傾向がみられた。

2. 競技特性不安では、中国のスポーツ選手は男女

1つの理由は、今回の対象である中国の大学生が1年生であるということで、対外試合を経験することが少なく、自己の心理的特性を過大評価しているのではないかと推察している。

とも日本の大学スポーツ選手に比べ、有意に低得点を示した。なお、中国の女子スポーツ選手は大学生より競技水準の高い福岡県国体選手に比べ低い傾向がみられた。これらのことから、中国の大学スポーツ選手のパーソナリティ特性としての不安特性は日本のスポーツ選手に比べ低いことが指摘された。

今後の課題

今回、日本と中国のスポーツ選手の間に心理的特性の相違がみられ、中国大学スポーツ選手の心理的特性の優位性が指摘された。しかし、今回は、国民の意識などの背景となるものを調査しておらず、心理的特性の相違については推測の域を出なかった。今後、さらに国民の背景をおさえ、対象数を多くして検討したい。

引用文献

- 1) 邱宜均, 貝恩渤: わが国の優秀な短距離選手の向性と神経症傾向に対する測定. 国家科研課題論文集, 1983~1984.
- 2) 陳文琦: わが国の優秀な体操選手の向性と神経症傾向についての研究. 国家体委科研課題論文集, 1983~1984.
- 3) 郑日昌ら: わが国の甲級女子バレーボール選手の向性に関する研究. 国家体委研課題論文集, 1982年.
- 4) 橋本公雄, 徳永幹雄, 多々納秀雄, 金崎良三, 梅田靖次郎: 競技不安尺度に関する研究(3)-特性不安尺度の信頼性・妥当性について-. 日本スポーツ心理学研究, 12: 48-51, 1986.
- 5) Martens, R.: Sport Competition Anxiety Test, Champaign, IL.: Human kinetics, 1977.
- 6) 岡沢祥訓, 猪俣公宏: トップレベルの卓球選手の心理的適性について. 日本スポーツ心理学研究, 9: 44-47, 1983.
- 7) 徳永幹雄, 金崎良三, 多々納秀雄, 橋本公雄: 競技不安の形成・変容過程と不安解消へのバイオフィードバック適用の効果の研究. 昭和60年度文部省科学研究費(一般研究C), 成果報告書, P. 136, 1986.
- 8) 徳永幹雄, 橋本公雄: スポーツ選手の心理的競技能力のトレーニングに関する研究(4)-診断テストの作成. 健康科学, 10: 73-84, 1988.
- 9) 梅田靖次郎, 徳永幹雄, 金崎良三, 多々納秀雄, 橋本公雄, 菊幸一: スポーツと恥意識に関する研究(1)-恥意識の関連要因について-, 西日本工業大学紀要人文社会科学編, 55-64, 1987.
- 10) 吉沢洋二, 岡沢祥訓, 猪俣公宏: 全日本女子ホッケー選手の心理的適性について. 日本スポーツ心理学研究, 9: 41-43, 1983.
- 11) 吉沢洋二, 岡沢祥訓: 女子フェンシング選手の心理的適性について-競技レベルからみたTSMI, MSI, 精神力, あがりの特徴について-. 日本スポーツ心理学研究, 13: 63-65, 1987.
- 12) 吉沢洋二, 堀本宏, 岡沢祥訓, 猪俣公宏: Pual Construction Personality Model からみたバスケットボール選手の心理的適性に関する研究. 日本スポーツ心理学研究, 14: 29-35, 1988.